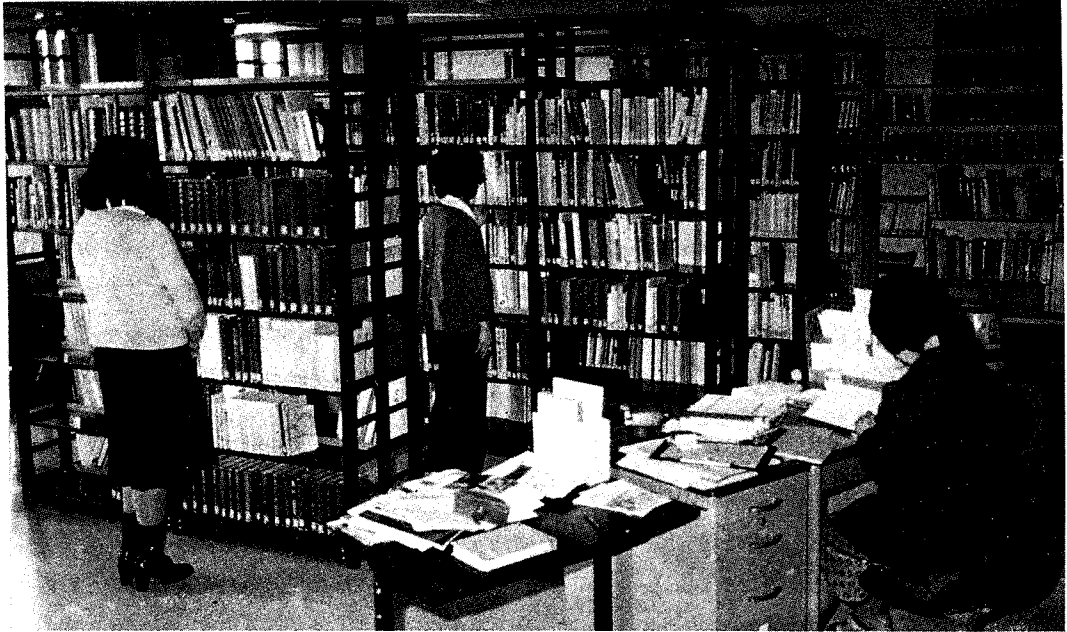


図書館たより

号 数 第 38 号
発行日 昭和53年 3月10日
編 集 島根県立図書館
発 行 松江市内中原町52
T E L (0852)22-5725
印 刷 (有)高浜印刷所



(新しく開かれた郷土資料室)

(山陰中央新報社提供)

53年度におもうちょう

県全市町村に図書館があつてほしい。それぞれの図書館で管内のすみずみまで廻る自動車文庫をもつてほしい。……しかし、この願いと実状は、随分、へだたっています。

おなじ県内で、読書の機会が得られない地域があつてはならないし、とはいえ、県立図書館の直接サービスのため、市町村立図書館の設置や拡充を阻害してはならないしと、悩みもあるところです。

県立図書館の充実 図書館活動の資源ともいえる図書資料の充実は、予算の確保をはかりながら、不断の努力をつづけていかなければなりません。このなかで、最近、県民のみなさんの関心がたかまっている郷土資料につきましては、特に、この収集、保存と利用の便をはかるため、今年の3月から、独立した郷土資料室を新設しました。今後は、郷土に関する古文書をはじめ文献、写真、絵葉書、地図、その他郷土出身者の著作物等一段と整備、保存していききたいと考えております。

また、53年度には、蔵書目録の作成と、マイクロリーダー・プリンターの設置によりフィルム化した資料の複写提供をいたします。

市町村読書施設の援助 市町村自体の図書館(読書)活動に自力をふやしてもらうため、市町村の読書施設をバック・アップしてまいります。

市町村図書館センターを強力に援助して、1カ所でも図書館が新設されることを期待しています。既設の図書館では、自動車文庫等を開始されることを願っていますが、この場合にも大量に図書を出して援助したいと考えています。

また、読書施設に恵まれない町村には、従来どおり、県立図書館の自動車文庫を巡回させますが、その町村にあつては、これをもとにして、町村内読書施設の充実をはかっていたいだきたいと思っています。

島根県立図書館次長 松 本 喜 雄

県下にひろがる 「古文書を読む会」 (五)

三刀屋町
邑智町) の巻



三刀屋町の巻

会の発足 三刀屋町における「古文書を読む会」の発足は、昭和48年の三刀屋町の合併二十周年記念事業の一つとして、町誌編纂事業がスタートし、資料の中に古文書が含まれていたことによります。

資料が集まるにつれ、「先ず編纂委員が読めないようでは」と県立図書館の藤岡大拙課長を招いて、指導を受けたり、又高令者教室でも同じ県立図書館の藤沢秀晴課長から郷土の歴史について話を聞いたりしているうち本格的に古文書を勉強したいとの声が強まってきました。

そこで町誌編纂委員、協力委員を中心に一般の人達にも呼びかけ、一昨年（昭和51年7月）に三刀屋町古文書を読む会として、発足致しました。

講師は県立図書館の藤岡大拙課長の御紹介により、同じ県立図書館の美多実先生にお願いすることになり毎月1回、第3土曜日の午後1時30分より2時間、三刀屋町の社会福祉会館の和室を会場として会費は毎回500円（テキスト代）6ヶ月分前納3,000円と

（講座風景）



します。テキストは当然講師の美多先生に選定方をお願いして、追々に町内に埋れた古文書を発掘、テキストとすることにして第1回を51年7月17日(土)に開きました。

会員 は、有線放送等で町内一般の人にも広く呼び

かけた結果、女性会員3名を含み申込者は25名に及びました。顔ぶれは、町誌編纂関係者11名を始めとして極めて多彩で、町役場職員、退職公務員、商家の女主人、町議会議員、元婦人会長、公民館職員等で特に昭和48年の宮中歌会始予選歌に入選された三刀屋町菅原の西村英夫先生も会員に加入されました。年齢は平均50才位です。

歩み 第1回の参加者は20名でした。その後会を重ねるに従い、脱落者があり、又新人の参加もありましたが、申し込んでいても仕事の都合で出席出来ない会員もかなり居り、その人には後でテキストを送付して、家庭で独習してもらおうという方法もとっています。

テキストは、今までに「三刀屋百姓一揆、宮内屋破却（天明三年）」「給下村人狐御処分人別帳（天保10年）」、又明治初年の三刀屋町火災資料など町内の身近な資料を取り上げているのが一般会員に関心を与えている理由の一つではないかと思われます。その他のテキストとしては、美多先生の御紹介で「雲国民乱治政記」、天明一揆関係資料等もあり、又町誌編纂関係で地元の給下村一宮修理免、八幡修理免等の「定」「覚」など郷土の歴史資料も一諸に読解しております。

その他、特に美多先生からは、古文書解説の他に幕藩体制の話や専門の地誌関係、斐伊川と地震道、中世の斐伊川の学説などをお聞きしており、最近では午後5時バスの時間ギリギリ迄開講して頂いております。

以上現在までに回を重ねる事第19回に及んでいますが、これからは町誌の編纂関係もいよいよ大詰めを迎えており、町内の埋もれた古文書の解説をお願いして所期の目的を達成する様、講師先生共々頑張りたいと一同張り切っております事を附言して筆をおきます。

（文責・草水晴元）

邑智町の巻

「邑智町古文書を読む会」が発足して、漸く7か月、まだまだ1人歩きも出来ない会ですから、県の中央機関誌に寄稿するのは、いささか汗顔の極みですが、未結成の地域の方の参考になれば幸いです。

私達の町、邑智町は、徳川時代には、大森銀山の幕府直轄支配のため、江川を境として、川向いの南岸側は浜田藩、北岸側一帯は天領として、幕府直轄と浜田藩の二つの行政支配によって、江戸時代を経た土地柄のため、街道筋や江川の舟付場には、関所に相当する番所が設置されて

いたようです。

従って番所附近の旧い家から、当時の模様を語る古文書や絵図面が、発見されることがあったが、残念ながら、これを保存する機運がないままに、貴重な資料が散逸したことは、今更の如くおしまれてならないと思います。

「邑智町古文書を読む会」は、筆者が県立図書館で開講される、「古文書を読む会」に数回出席した折、桜木保先生より、会の設立についての力強い助言をいただいたことが動機となって、一昨年7月に発足したばかりです。以来毎月第3土曜日(午後)を例会日として、皆が、その日を待ち遠しい気持ちで集合し、僅か2時間ですが、桜木先生の熱心な御指導のもとに、だれもが時間の経つのも忘れて、一生懸命に勉強している実情であります。また時折町内で、会員に逢ったときでも、「古文書を読む会」の話題を通じて、人間関係というか、お互いの連帯感が結ばれて、町民親和の面にも、無形のプラスになっております。

また、「古文書を読む会」が動機で、郷土の言い伝

講師	桜木保先生(県立図書館)
定例日	毎月第3土曜日 13:00~15:00
会員	男性が断然多く、20名位・女性はそのうち2名、役場職員、教員、退職者、商店主、農林業従事者といった人が多い。
会費	月 1,000円
テキスト	「嘉永六丑八月権市漂流記」「文化八年南北両講武村山論一件」「嘉永七寅五月異国船之儀ニ付被仰渡御書付」etc

新沢長州発町棟助形あり
 彦左衛門重太郎と連雁尾屋より
 多浪流中當り送るおのれを元
 彦左衛門重太郎と連雁尾屋より
 多浪流中當り送るおのれを元

(テキスト)

えや、昔話などを記録に残そうという運動が、実が結んで、沢谷(旧沢谷村)の古いことを探し研究する会「伝承会」が発足。活動を続けた結果、昨年10月に、地区内の昔話や言い伝え等を集録した冊子「温古」と題した第1号の発刊を終り、現在第2号の原稿を編集中であり、本当に嬉しく思います。

水根部
 七郎重
 栄吉
 彦市
 尚吉

邑智町には、万葉集に登場する猿丸大夫の娘アキの墓、また南北朝時代に朝廷に味方して闘い散萃した佐和善四郎顕連公の居城青杉城跡、泉山城跡等往時の歴史を語る史蹟の多いことも私達の誇りです。

郷土の先人の足跡を探究または発見という面でも、偶然先月1月21日の例会日に、会員の家から持ち寄った古文書が、元禄15年のものであったこともあり、古文書を読む会が、充実していくことによって、埋もれているものが、発見される機会も期待される訳であります。

どうか、今後とも、県立図書館の温かい御指導と御支援のもとに、県下の古文書を読む会員との交流を深めて、共に勉強していきたいものと念じながら稿を閉じます。

(文責・貝谷力男)

昭和53年度 県立図書館各種講座受講生募集!!

申込方法 ~ 「住所・氏名・電話番号・受講講座名」をハガキか電話で

〒690 松江市内中原町52 県立図書館管理課普及係まで

申込期日 ~ 3月31日まで

(電話) 松江 (0852) 22-5730

	図書館読書教室		短歌に したしむ会	郷土 人物史講座	古典文学 を読む会	古文書を読む会	
	松江会場	東出雲会場				入門講座	中近世講座
開催日	第3火曜		第2火曜	第3火曜	第2木曜 第4	第1土曜	第3土曜
時間	13:00 ~15:00		10:00 ~12:00	10:00 ~12:00	14:00 ~16:00	13:30 ~15:30	13:30 ~15:30
会場	県立図書館	中央公民館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館
募集人員	20名		30名	50名	30名	50名	50名
開催期間	1年						
対象	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般
経費	無料	無料	テキスト代 を除き無料	テキスト代 を除き無料	テキスト代 を除き無料	テキスト代 を除き無料	テキスト代 を除き無料
講師	各地域における読書関係 の指導者		よみうりし まね文芸歌 壇選者 原 定夫	県立図書館 藤岡大拙 藤沢秀晴 ほか	元広島女学 院大学教授 宍道 達	県立図書館 桜木 保	県立図書館 藤岡大拙 藤沢秀晴
内容	読書にしたしみながら人 生に、社会にあるいは文 化に対する見方、考え方 を養う目的から誰でも気 軽に参加できる講座です。 参加者はグループを作っ て、集団読書のかたちで 和やかに意見の交換、体 験の交流をはかります。		作るより、 むしろした しむ会です。 講師を囲ん で時には古 典を鑑賞し、 時には現代 の作品、作 者を考え、 またお互い の作品を自 由に語りあ う集いです。	歴史と人物 ——のもつ 限らない魅 力を追求し ながら、郷 土島根の人 物を取りあ げて古代か ら現代まで の歴史と文 化を浮彫り にします。	引き続き 「源氏物語」 の講読と鑑 賞を行います。 原文の 解説にとり くみつつ、 王朝文化の 精髓にふれ る高度な講 座です。	県立図書館 が編集した 「古文書ハ ンドブック」 その他のテ キストを使 用します。 初歩から手 ほどきし、 読解力の養 成につとめ る講座です。	入門講座を 終えた程度 の読解力を もつ人が対 象になりま す。 テキストを 使用して読 解はもとよ り、史料の 背景をなす 郷土の歴史 に及ぶ講座 です。

私とこの作品

「天平の藁」 井上 靖

大田市久手町原口区

三 谷 千 枝 子

「青丹よし奈良の都は咲く花の匂うがごとく今さかりなり」

この歌を口にする時、私は天平勝宝4年4月の大仏開眼会の華やかな光景が目に浮んでくる。そして言いた唐僧鑑真の姿も。

聖武天皇の天平5年第9次遣唐船に4人の留学僧の姿があった。普照、栄叡、戒融、玄朗である。普照は大安寺の僧で、20年後唯一人生きて故国の土を踏んだ人である。栄叡は興福寺の僧であり、戒融は筑紫の人。そして玄朗は4人の中で一番年若く紀州の出身であった。

「天平の藁」はこの留学僧達の波乱の運命と、伝戒師招聘の難しさを、最大の難関である渡海の厳しさを、そして鑑真和上の鉄の如き意志をまぎまぎとみせてくれた。

晩秋のある日、真夏のような強い日差しの中で私は金堂しびの鴟尾を見上げていた。「天平の藁」の主題となった唐招提寺のそれである。帰国した普照の元へ遣渤海使が持ち帰ったのである。これを託した人物は誰か不明であるが多分戒融であったろう。玄朗であったかも知れない。

僧衣を脱ぎ唐衣をまとった紀州出身の玄朗は妻帯し子女2人あったと言う。気の弱い性格であったと思われる。戒融のふてぶてしさが多少なりとも彼にあったならと悔やまれる。小船を嫌ひ次の遣唐使船のくるまで渡航を見合せると一人長安に戻って行く

後姿に一抹の不安があったがやはり駄目であった。残照に映える鴟尾。1200年の星霜の中で何を想い何を見てきたのか。

栄叡の亡くなったのは和暦天宝8年の暮であった。入唐して已に16年経ていた。「唐大和上東征伝」には彼の死について僅かながら記述があるという。栄叡の枕頭に坐して和上が生ける人に対するように語りかけた言葉に涙が出た。普照がその亡骸の上に最初の土をかけたという。哀切極りない場面である。

4人の留学僧が希望に満ちて洛陽に一歩をしるしそこで老残の身一つを故里に運ぼうとする景雲に出遇った。彼の「自分にも業行にも到頭陽が当らなかつた」と言う感慨に実感もなくむしろこれを軽んず

る心があった。4人の前には阿部仲麻呂、吉備真備、僧玄昉という目標があったのである。

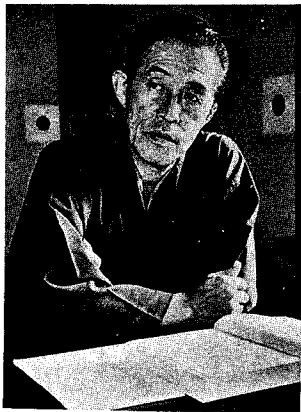
しかし、栄叡も玄朗も何も得ることなく唐土の中に埋没してしまった。戒融にしたところでくまなく何かを求めて国中を歩き続けただけのことで自己満足に過ぎない。故国のためには一物をももたらさなかつたといえる。1人普照が亡き栄叡の意志を

継いで鑑真を渡日させるのに成功した。

すべて人間とはそういったものであろう。一を生かすには九ツの捨石が必要なのだ。

あ と が き

一般のみなさんを対象に「私と読書」「私とこの作品」「私とこの作者」について論文を募集しましたところ、多数のご応募をいただき、厚くお礼を申し上げます。優劣をつけがたいほど立派な作品が多く、そのうち一編を掲載させていただきました。



(井上 靖)

「人口を考える」

村松 稔著 中央公論社 340円

地球上に人類が出現して以来、無限に近いような長い期間をかけて、初めて人口十億の線に達したのが1830年頃といわれる。しかし、それ以後はわずか150年足らずのうちに40億という数字をかぞえ、とりわけここ15年間では10億も増加したということは、まったく驚嘆に値する。まさに人口爆発という形容がぴったりである。

そこで食糧・エネルギー資源等との関係で人口増加を抑えねばならないということは誰もが認めるところである。国立公衆衛生院の人口学部長をつとめる著者は、マクロ（世界又は国家の政策）とミクロ（個人の意思）の両サイドから、その解決法をみいだそうとするが、宇宙船地球号が自らの叡知で、この難関を突破できるかどうか。われわれも大きな関心を寄せねばなるまい。

「こどものとも」

発行所 福音館書店

読書の習慣は、幼児期から良い本に親しませること。それをお母さんが読み聞かせを十分にしてください。

ではどんな作品を与えたら良いのでしょうか。近年子どもの本も高くなり、そう簡単に手に入ることができなくなりました。

子どもの読書施設（例えば図書館）に近い地域の方は別ですが、県内のおおかたの方々は、良いこととは思っていてもどうしてやったらいいのかわからないというのが現状でしょう。

そこで、ここに取り上げました“こどものとも”は、月刊の予約絵本で、良い本をたくさん与え、本に親しんでもらおうと価格を安く（予約制にして売れ残りを無くす。紙質も質素に）して出版されています。また“普及版こどものとも”は前述“月刊こどものとも”として今までに出版したものの中から特に評判のよかったものを選び、新たに出版しているものです。

このほか、“少年版こどものとも”や“こどものかがく”も同様の方法で出版されていますので、お近くの書店か、出版社に直接連絡されれば手に入ります。（店頭販売はしていない）価格はいずれも1冊180円～200円。

「私説古風土記」

松本清張著 平凡社 1,400円

出雲国風土記など現存する5つの風土記にスポットをあて、記紀に著わされた正統国史の虚偽を指摘、訂正し、秘められた真実を探る書である。「古代史疑」「古代探求」など多くの著書で精力的に日本古代史を問うてきた松本清張が、はじめて風土記に大胆なメスをふるう。いつもながら、鋭い感覚と論理は読んでいて心憎いばかりである。

本書の圧巻であり、とりわけ興味深く読めるのは、もちろん出雲国風土記の稿である。「神々の笑い」「イズモの分断」「ムスビの神」「神々の屈伏」と題する4章で、風土記記載の神話伝説を解明し、謎につつまれた古代における出雲の位置、つまり出雲の古代史像を鮮明に浮彫りにさせる。著者の文献史学・考古学・東洋学・言語学に関する博識が駆使されるのはいうまでもない。

謎解きのようなスリルを味わいながら読めるのは、流麗な描写の中に実証に裏づけられた鋭い卓見創見が随所に顔をのぞかせているゆえである。

「山陰の風土と歴史」

内藤正中著 山川出版社 1,300円

裏日本と呼ばれてきた山陰に、暖かい光がさしはじめている。神話の時代からここには、営営として山を拓き、土地を耕し、歴史と風土をつちかかってきた純朴でたくましい人々がいた。

物質文明に飽いた現代人の心に、山陰の風土は強烈な印象を与える。忘れられた真人間の営みを見るからである。

著者はいう。中央志向の工業化や観光による経済主義的発展でなく、山陰の自然と風土に根ざした農林水産業、地場産業の振興をつうじて新しい山陰の夜明けが始まると。

本書は著者の卓越した手腕によって、山陰の歴史が古代から現代までの確に描かれる。その中からはぐくまれた風土が鮮明に浮かびあがってくる。そして、今後の地域発展について、明るい見通しを与えてくれる希望の書でもある。地方を支えるのは、その土地に住む人々である。豊かな土地を作るため、風土と歴史を一人一人が見なおさねばならない。今、その動きがゆるやかに、だが力強く歩み出した。

新刊図書紹介



児童図書館建設

出雲・平田・安来市の青年会議所

出雲・平田・安来市における青年会議所は、記念事業として「児童図書館」を建設し、地域の子どものための読書の輪を拡げようとしている。

出雲児童図書館

所在地 出雲市塩冶町
 貸出時間 10:00~17:30
 (土・日曜・祝祭日開館)
 休館日 毎週火曜日・祝祭日の翌日
 蔵書冊数 4,300冊 (S52.2月現在)
 建物面積 187㎡ 鉄筋平屋
 開館月日 昭和52年7月31日
 職員 専任司書 1名
 特色

次代を担う子供たちに、夢と希望を与え、遊びの中から少しずつ読書の楽しみを享受し、その喜びを友人とわかちあい、育てる場にしたい。

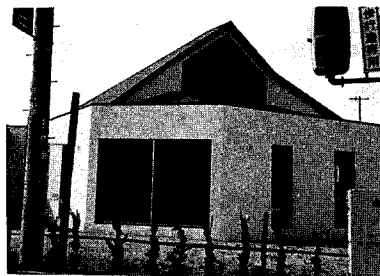
現在は、「迷惑をかけない利用の仕方」等、しつづけに力を入れ、団体ルールを身につけた上、自発的なグループづくりを指導する方針。

平田児童センター

所在地 平田市平田町
 貸出時間 10:00~17:00 (日曜・祝祭日)
 13:00~17:00 (土曜・平日)
 休館日 毎週月曜日・月末
 蔵書冊数 1,600冊 (S53.2月現在)
 建物面積 233㎡ 木造平屋
 開館月日 昭和52年11月6日
 職員 兼任 1名
 特色

将来の図書館建設の契機にしたい。児童センター事業として、読書感想画コンクール、キャンプ、チビッ子まつり、もちつき大会を予定している。

定期的には、おり紙教室、人形劇、童話絵本の展示、移動文庫を行っている。



(出雲児童図書館)

職員 兼任 1名
 特色

字を覚え始めた幼稚園児や

小学校低学年の子供たちが一字一字声を出して読むことができる、子供だけの世界をつくらうというねらいで発足。

今後は、チビッ子広場づくり、あと15㎡程度の読書室の増設、図書数を6,000冊にする計画。

安来児童図書館

所在地 安来市飯島町
 貸出時間 9:00~17:00 (平日)
 9:00~15:00 (土曜日)
 休館日 毎週日曜日 祝祭日
 蔵書冊数 3,000冊 (S53.2月現在)
 建物面積 55㎡ 木造平屋
 開館月日 昭和52年5月5日

読書会紹介

読書会名 母衣小学校PTA読書会
 所在地 松江市北田町169-1 母衣小学校
 住所 松江市北田町71-3
 代表者・氏名 永井澄子
 会員数 23名
 定例日・時 毎月第2金曜日 10:00~12:00

世の中が、いろいろと繁雑になって来ているなかで、本を読むことが、あたりまえの姿として、受け入れることが出来る生活でありたい。そんな願いから、熱心なPTA会員の働きかけによって発足して満6年を迎えました。昨年度は、鳥根県読書推進運動協議会から表彰されるという名誉にも浴しています。

会員は、PTA会員からなっている性質上、児童の卒業・転校等により、毎年多少の出入りがあるものの、発足当時の会員も何人か居り、変わらない熱意をもって運営に当たって居ることに、新会員も勇気づけられております。

会員を3人から4人のグループに分け、図書を選択・その月の会の持ち方等は、当番に一任されており、読書会での意見交換や読後感も持ち廻りで記録しております。

学校の一室での話し合いがほとんどで、なかなか外に出る機会がありませんが、私小説のようなものであった時などは、図書の主題からはなれて、その作者自身の生い立ちや家族のこと、社会とのかかわり方、さらに発展して、一般的な社会の問題、子供の教育などに移ってゆき、活発な話し合いに時間を忘れることもあります。今年度は「出雲の迷信」を取り上げた折に、著者でいらっしやる速水先生においでいただき、狐持ち誕生の由来などについてお話をうかがったりもしました。まだ手のかかる子が居る会員から、成人に近い子が居る会員もいて、家族関係のあり方、子育てのむずかしさ等、いろいろな立場の意見を聞けることも、大変有意義です。

(文責・高野すみ子)



(母衣小学校PTA読書会)

読書会名 つくし読書会
 所在地 大原郡木次町 木次町立図書館
 住所 大原郡木次町大字木次
 代表者・氏名 舟木ヒサエ
 会員数 11名
 定例日・時 毎月第3木曜 13:30~15:30

つくし読書会は、本体は木次町婦人会木次地区婦人会内のクラブ活動の一つ、読書クラブである。

昭和51年6月発足。婦人会員全員に呼びかけたところ希望者10名が応じた。毎年年度がわりに募集するが、その後1名ふえたにすぎない。年齢は50才前後。その子女たちは青年期あるいは成人期にある。

資料は、すべて県立図書館におんぶしている。内容は、これまで文学的なもの、それも小説に限られていたが、最近エッセイに取組んだ。今後、そういうものからさらに詩歌、論文などに及ぼしていきたい。

方法は、一か月間家庭で、それぞれ読書し、一堂に会して読後感を話合う。司会者はたてず、誰かからもなく感想やら意見やらがとび出す。談論風発、口角泡を飛ばし——といったところ。2時間があつという間に過ぎる。

話し合いの内容は、要約すれば、

人生いかに生きべきか〜ということにしばられる。人生経験豊かな年齢層の集いなので、作品内容から自分の体験を引出したり、自分の体験から作品を批判したりするのに事を欠かない。有吉佐和子の「華岡青洲の妻」「紀ノ川」川端康成の「雪国」「美しさと哀しみと」などは容易に受入れることができたが、田辺聖子の「窓を明けますか」瀬戸内晴美の「ひとりでも生きられる」になると戦前派は抵抗を覚える。しかし若い世代の自分の息子や娘との断絶を防止するためにもこういう内容のものをバイブルとしてもっと読むべきではないか。旧道徳を金科玉条としないで、大いに若返ろうではないか、と前向きになりつつある。読書会の効果ここにありというべきか。

(文責・石橋俊雄)